子どものまわりに危険がいっぱい

周囲のちょっとした気くばりで事故の大部分は防げます。

1 ベビー用品は月齢や使用目的にあったものを選び、取り扱い説明書をよく読んでいますか。

赤ちゃんが使うものはすべて安全の規格や基準にあっているとは限りません。Sマーク・SGマーク・STマーク等安全マークがついているものでも、使い方や使用月齢が違っていたり、赤ちゃんの体に合っていないと事故は起ります。使い方の表示や注意書きは大切で、説明書を良く読み、構造や品質に問題はないかを確認して使用します。

取扱説明書や使用上の注意を良く読み、きちんと守って使用する。子ども用品はデザインだけではなく、安全性にも目を配る。

2 ベビーベッドの柵はいつも上げていますか。

赤ちゃんの発達は早く、まだ動けないから大丈夫と思って、ベッドの柵を下げたままミルクを作りに行ったり、オムツを取り替えに行ったり赤ちゃんからちょっと目を離したすきに転落事故はおこっています。

ベビーベッドに寝かせるときは、必ず柵を上げておく。

3 テーブル、ソファーなどの上に赤ちゃんを寝かせたまま目を離すことがありますか。

3か月ぐらいになると、赤ちゃんは手足をバタつかせ激しく動き、頭のほうへずりあがったりします。5か月を過ぎると早い赤ちゃんは寝返りが打てるようになるので、テーブル・ソファーなど高いところに赤ちゃんを寝かせるときは、目を離すことができません。

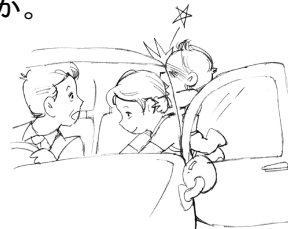
テーブル・ソファーなどの高いところに寝かさない。子どもは動くものだということを忘れずに。

4 赤ちゃんを抱きながら、熱い食べ物や飲み物を食べたり飲んだり、料理することがありますか。

3～5カ月にかけて赤ちゃんはこぶしをふるったり、物をつかんだりができるようになります。大人の持っている熱い食べ物、飲み物にも手を伸ばそうとするので、片手で赤ちゃんを抱きながら熱いものを扱うことは危険です。また、抱いている赤ちゃんが動いたり、動かなくても誤ってカップが手から滑り落ちたりしないとは限りません。赤ちゃんの皮膚は成人に比べて薄く、洋服の上からでも容易に深度の深いやけどになってしまいます。

赤ちゃんを抱きながら、熱い物を食べたり飲んだり運んだりしない。

5 赤ちゃんを抱いたり、おぶったりするときは、周りにぶつかると危ない所がないか確認をしていますか。

赤ちゃんをおぶって車に乗り込むとき、頭を入り口にぶつけてしまったり、抱っこして立ち上がろうとして机にぶつけてしまう事故が、赤ちゃんばかり気にかけていて周りを見ないで行動したに起こっています。

赤ちゃんを抱いたりおぶったりするときは、まわりにぶつかると危ないところがないか、安全を確認してから行動する。

6 タバコや灰皿はいつも赤ちゃんの手の届かない所に置いていますか。

腹ばいになり、好きなおもちゃをつかんで遊べるようになった赤ちゃん。手を口に持っていき、なんでも口の中に入れようとします。タバコは2センチ以上飲み込むと、時に命にかかわるといわれています。口に入れると危険なタバコが赤ちゃんの手に届く場所にないか、いつも気をつけておく必要があります。

タバコや灰皿は手の届かないところに置く。ジュースの缶を灰皿がわりにしない。

7 自動車に乗るとき、チャイルドシートを後部座席に取り付けて使用していますか。

赤ちゃんを抱っこして車に乗るのは危険です。車が衝突すると腕から飛び出し、顔や頭をシートやダッシュボードにぶつけて、事故の衝撃をまともに受けてしまいます。また、エアバックつきの車の助手席にチャイルドシートを取り付けるのは、衝突によってエアバックが作動すると押しつぶされるので危険です。

車に乗せるときは年齢にあったチャイルドシートを後部座席に取り付け使用する。

8 赤ちゃんを抱いているとき、自分の足元に注意していますか。

今まで簡単に通れていた所でも、赤ちゃんを抱いているときは足元が見にくいので、床が滑りやすかったり、カーペットがめくれていたり、ちょっとした段差にもつまずいてしまいます。赤ちゃんを抱いたまま転倒すると、体で押しつぶしてしまったり、テーブルや家具にぶつけてしまうので注意が必要です。

赤ちゃんを抱いているときは、自分の足元に十分注意を払う。

9 赤ちゃんの腕を、お兄ちゃんやお姉ちゃんが強く引っ張ることがありますか。

赤ちゃんの体は完全にできあがってないので、ちょっと腕をひっぱった程度でも脱臼をしてしまうことがあります。脱臼は癖になりやすいので、赤ちゃんの腕を引くときは、急に引っ張ったり、強くなり過ぎないように普段から注意が必要です。

赤ちゃんの腕を引くときは強くなり過ぎないようにする。